

八峰白神ジオパーク基本計画

八峰白神ジオパークの紹介——

- (1) テーマ
- (2) 概要
- (3) 地質学的特徴

(1) テーマ

八峰白神ジオパーク基本計画
ー八峰白神ジオパークの紹介ー

白神の恵みに生きる

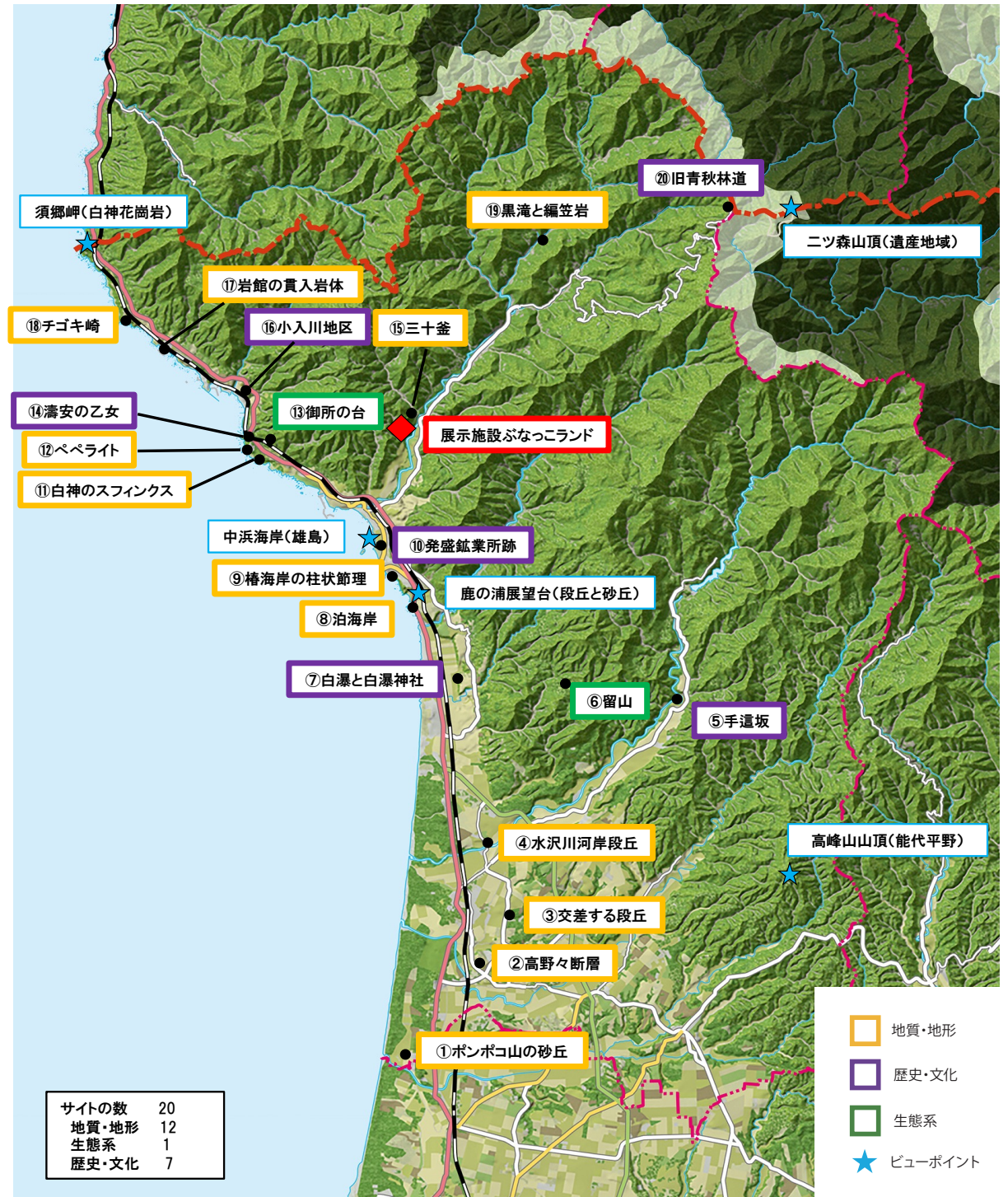
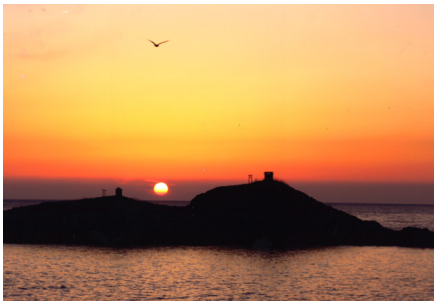
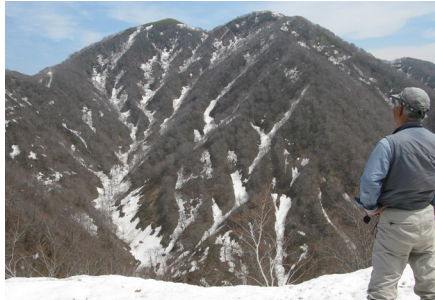
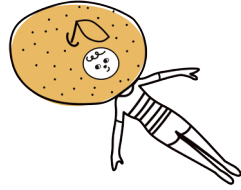
この地域で暮らす人々は、世界でも稀な手つかずの白神山地の森と日本海を結ぶ水の循環の恵みを受けて暮らしています。人々は美しい自然への畏敬の念を抱き、世代を超えてそれを保護していこうとしています。

小さな箱庭のような狭い場所ではありながら、300万年前から隆起し続けている大地が波や風で削りだされ、多様な地質・地形の宝庫となっている場所です。ここでは、白神の大地の「ジオ（大地・地形・地質）」「エコ（自然・生態）」「ヒト（歴史・文化）」の3つの要素のつながりを楽しく学ぶことができます。

(2) 概要

八峰白神ジオパーク基本計画 —八峰白神ジオパークの紹介—

八峰白神ジオパークの範囲は、秋田県八峰町の全域です。現在、地球科学的に重要な価値があり、見どころとなる場所を20か所、見晴らしの良い場所を5か所設定しています。



(3) 地質学的特徴

八峰白神ジオパーク基本計画 —八峰白神ジオパークの紹介—

八峰白神ジオパークは主として中生代白亜紀にできた花崗岩の基盤が域内の北側に位置し、それを覆う新生代第三紀の堆積岩とそれを貫く貫入岩類が域内の多くの場所に分布します。この地域は、新第三紀の終わり頃(約300万年前)から現在まで隆起し続けたために、白神山地の深い谷と崩落

地形、海岸・河岸段丘などの多様な地形を有しているのが特徴です。また、白神山地の原生的ブナ林を始めとした豊かな生態系と、そこからもたらされる豊富な水が日本海に注ぎ込むことにより、ハタハタなどの豊かな漁場が発達しています。
(平成30年度日本ジオパーク委員会審査結果報告書より引用)

八峰白神ジオパークの大地は大きく4つの時代に分けることができます

01 花崗岩の時代 (白亜紀後期、1億4500万年前～6600万年前)

白神山地の基盤となる花崗岩は、地下の深いところでゆっくり固まりました。この時代は日本はまだ大陸の一部でした。



代表的な場所：板貝海岸、須郷岬

02 グリーンタフの時代 (中新世前期、2303万年前～1597万年前)

いわゆるグリーンタフという、火山岩の形成した時代です。この時代は日本海が拡大し、黒鉱の鉱床もこの時代に形成しました。



代表的な場所：白神のスフィンクス、岩館の貫入岩体

03 すばり! 海底火山の時代 (中新世後期、1163万年前～533万年前)

八峰町の北部海岸で観察できる素波里安山岩は、グリーンタフよりも新しい時代に形成しました。この時代は海底火山が活発に活動していました。



代表的な場所：椿海岸の柱状節理、白瀑

04 人類の時代 (第四紀、258万年前～現在)

白神山地は300万年前から隆起し高くなりました。その過程で山では険しい谷、海岸では海成段丘が発達し、独自の自然や文化を育みました。



代表的な場所：ポンボコ山の砂丘、留山